

## 2024年5月 新しいみどり病院がオープンします

岐阜勤労者医療協会 専務理事 大橋 正和

新病院のコンセプトは「地域にひらかれた、みんなにやさしい病院」です。岐阜健康友の会や地域のみなさんと一緒に、より良い病院を目指していくこと、また、無差別・平等の医療・介護・福祉を提供し、地域のみなさんのくらしに貢献したいと考えています。

新病院は現みどり病院の100m北で建設中です。現在と同じ4階建の建物になります。すこやか診療所とすこやか透視センターを新しいみどり病院内に統合しますので、建物としては今よりも大きくなります。入院ベッド数は99床で変わりますが、個室が計33床に増えます(現在は7床)。どの部屋のどのベッドにも窓からの光が入るよう設計されています。また回復期リハビリテーション病棟では廊下を広くしリハビリテーション室を併設、外来や一般急性期病棟では十分な感染対策を施した設備、などなど、安心して受診していただける環境を整えています。



**新みどり病院建設基金目標 2億円**

2022年度目標: 8000万円 **達成**  
 2023年度目標: 8000万円  
 2024年度目標: 4000万円

またMRIと骨密度測定器は新しい機器を導入し、より早く正確な検査が可能となります。ご期待ください。

環境省が推奨するZEBの認証を受け、従来より50%以上の省エネルギー対策を施し、環境にもやさしい病院づくりに取り組んでいます。昨年の11月に本格的な建物工事を始め、4月には鉄骨が組みあがり、完成が待ち遠しい思いでいます。

岐阜健康友の会の皆さんにご協力いただいている勤医協基金ですが、2022年度は目標の8000万円を超えるご協力をいただきました。紙面上ではあります

※ZEBとは・・・「ゼブ」と呼びます。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目標とした建物のことです。



4/27 新みどり病院 上棟イベント

が、深くお礼を申し上げます。

今日まで岐阜健康友の会の皆さんとともに取り組んできた「無差別・平等の医療・介護活動」や「社会保障や平和を進める運動」などを将来に継承していくための新しい拠点としての新病院建設になります。建物本体で26億円、総工費32億円の一大事業です。今回、勤医協基金のご案内と振込用紙を同封させていただきました。引き続き、ご協力をお願いします。

## 2023年度 岐阜健康友の会 活動方針 (総会方針)

岐阜健康友の会 事務局長 熊崎 辰広

- 今年度は5つの柱で進めます。
- 1 引き続き新病院の建設を成功させるために、勤医協基金拡大の目標達成に向けて活動を進めます。
  - 2 コロナ禍に負けないで、それぞれの地域の状況を踏まえ支部活動を前進させます。世代交代の活動・支部運営を目指します。
  - 3 平和と憲法を守るための学習を強めながら活動を進めます。
  - 4 街づくりの活動では、学校給食の課題や交通問題など、地域の課題やニーズをつかみ、他団体と共同しながら進めます。
  - 5 岐阜健康友の会3か年計画(2023年～2025年)を立てて進めます。

今年度は特に、新みどり病院建設の基金活動をもっとも精力的に展開することが求められます。つながりを多くする活動が重要となるため、主体的に参加できる活動を広げ、新みどり病院建設の基金目標にむけて、工夫した活動を前進させましょう。

それぞれの支部や地域のニーズにそつての活動の展開を目指しましょう。

例えば、「ウォーキング」「身近な史跡巡り」「環境点検活動」「里山登山」など実践型の活動は、フレイル予防にもなり地域で求められている内容です。「モルック」は多くの支部ですすめられているため、各支部対抗の企画などを検討し、楽しいから参加したい活動を目指します。

### 健康 春秋

一昨年、岐阜勤労者医療協会五十周年記念事業として歌人で石川啄木研究者の碓田のぼるさんの講演会を開催しました。その講演内容であらためて感じるところがありました。碓田さんは一般の人の啄木像とは少し違うものを紹介したいと、啄木の晩年、といっても二十二歳(二十六歳没)、釧路新聞での政治評論の内容に触れています。▼啄木は、明治四十一年一月に、小樽に家族を残して単身で釧路に向かいます。さいはの駅におりたち、雪あかり、さびしき町にあゆみいりにき。その年二月に釧路新聞の主筆として「予算通過と国民の覚悟」という評論を書きます。▼「第二四議会における絶対の勝利者は、政府に非ずして増税案なり。否、此苛酷なる増税案を余儀なくしたる膨大な軍事費なり」。「政府は軍事費の傀儡(カイライ)にして、国民挙つて其奴隷とせられつつあるを」「吾人が一人静かに考へ来るの時、国民全体を苛税にくるしめてまで猶軍備の完成を遂げざるべからざるの理を發見すること能わず」▼啄木の評論からすでに百年以上経過し、しかも平和憲法下にも関わらず国会には安保三文書とともに膨大な軍事費予算が計上されています。▼残念ながら、啄木の指摘が現在の予算にもストレートに通じていません。つまり保守的政治の本質は、太平洋戦争の敗北にも関わらず、百年経過しても何ら変化しなかった、ということでしょう。か。それとも啄木の政治的感性が時代を越えていたのでしょうか。(K)